



# INDONESIA MISSION

発行：日本福音教会(JEC) インドネシアミッション

〒662-0896 西宮市上ヶ原六番町2-42 西宮福音教会内 TEL：0798-51-5100

郵便口座：00970-3-313875 「インドネシアミッション」

HP：<https://indonesiamission.info/>



新ホームページ  
スマホ対応



川でマンディ(水浴び) ステップアウトチーム

西カリマンタン宣教のためにお祈りとご支援をありがとうございます。

昨年末は異文化体験ツアーで、中高生、大学生、社会人と共にグロリア寮1と2を訪れました。みんなインドネシアが大好きになり「また行きたい!」と語ってくれています。未成年のツアーは安全面も含めて心配も大きいですが、でもやっぱり行って良かったと思われました。

それから、年末の訪問でうれしかったのは、成長し地域に仕える寮の出身者たちとの再会でした。スルートウンバワン村の村長になったナセールは「人々の声をよく聞いて、政府側との橋渡しになりたい」と語っていました。子どもたちが成長するのにはずいぶん年月がかかるものですが、これからも頼もしい彼らの姿を見ていきたいものです。

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ



半袖のクリスマス(グロリア寮I)

# ATI神学校訪問

アンテオケ宣教会総主事・元インドネシア宣教師 大田裕作・伯子



ディナール先生と伯子先生

私には2年ぶり、家内には10数年ぶりのATI神学校訪問でした。私たちが奉仕した時代から約30年、在任当時に日本の支援で建築できた宣教師館をはじめ教室、女子寮、図書館などが広大な敷地に並んでいますが、赤道直下の厳しい熱帯雨林気候のためどの建物も経年劣化が目立ってきました。一度大工仕事など手に覚えのある方々に呼びかけて建築メンテナンスツアーを企画したいと心に願わされました。

学内には従来の神学校部門のほか、宗教教師の資格を取得できるコースも新設され、合わせて100名ほどの学生数です。教師方は厳しい財政状態の中、主を見上げて純粋に弟子の育成に励んでおられますが、母体であったGMII教団が数年前に大きく分裂してしまい、その負の影響が影を落としています。私たちとしては①次の神学校教師となる人材を派遣する②神学生の奨学金の形で経済支援する などの方法で続けてあの地の働きをサポートしていきたいものです。



学生・スタッフと一緒に



ATIでメッセージする  
大田先生

Singkawang ブンカヤン 約140km

## プニティ・アナスタシス教会からの献身者 デシ姉からの便り

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ

シャローム、神様の愛にこころから感謝します。  
アンジュンガンのATI神学校での5年間の学びと訓練を、祈りと献金を通して支えてくださってありがとうございました。私はATI神学校を3年前に卒業し、奨学金を受けていましたので卒業後3年間は神学校から派遣されたGEPEMBRI教団の教会で奉仕しました。2年間はスンガイ・クナン教会で奉仕し、残り1年間は サンガウ教会で奉仕しました。この3年間のお礼奉公を無事終えることができたのも、皆様のお祈りのおかげです。ありがとうございました。この後、私は新しい場所で神様に仕えていきます。私のこれからの計画や働きのために、続けて祈りで支えてくださいますようお願いいたします。

皆様の愛と支えに私はお返しすることはできませんが、皆様の上に祝福がありますようにお祈りいたします。  
デシ(デシヤンティ)

デシ姉は、祖先崇拝の家庭からCSで救われ、高校卒業後献身に導かれました。経済的理由で高校、ATI神学校時代は日本よりサポートを受けてきました。3年間のインターンを終えて、感謝のお便りが届いています。

高橋めぐみ



奉仕教会の牧師夫妻と 左がデシ姉妹



奉仕教会の子どもたちと



昨年末から年始にかけてのステップアウトに参加した中学生～社会人の感想を集めました。プログラムや生活を通して、彼らが感じたことをお聞きください。

※出来るだけ生の声を届けたいため、可能な限り文章を校正していません

## 「散髪事情から」

八尾福音教会 高内誠生

インドネシアで驚いたことは、男性の髪型が子どもも大人もオシャレな人が多いことです。それもそのはず、日本より数は多くないですが、あちらこちらに床屋があり、お値段なんと20,000ルピア(日本円で約200円)!! メントス4本分の値段で散髪出来るので、現地の人にとっては気軽なオシャレなのかもしれません。床屋に掲げられている写真の中から自分好みの髪型を伝えて切ってもらうスタイルで、実際に私も散髪に挑戦してみました。結果は…思っていた感じとは違う仕上がりにりましたが、若干現地の人風の格好いい髪型に仕上げてもらいました。移り変わりが激しい世の中であって、髪型の流行は日々変化していきます。生活様式も同様に日々変化し、私たちはそれに頑張っ合わせて生きていくように思えます。しかし、永遠に不変の福音は、どんなに時代が移り変わろうとも変えることなく堅く守り、宣べ伝えなければと(散髪を通して)思われました。



現地で散髪、結果は・・・

## 「川マンディ」

国分福音教会 富浦昊

最初マンディって何か全然分からなかったです。シャンプーいる?と聞こえてきて、えっ?ってなりました。インドネシアでは家にお風呂があっても、川もお風呂の役目を果たします。ちょっとビビリながら川に行きました。現地の子につられてテンション上がりそれに川に入りました。髪の毛と身体を洗ったらそのまま川に入るだけなので楽でした。慣れると川マンディの虜になってしまいました。ハマったので翌日も川マンディしました。その日は場所を変えてだいぶ山の中に行きました。虫や草がいっぱいで「こんなところ通って行くの?」って思った先は、絶好の川マンディスポットでした。川マンディを通じて現地の人と仲も深まりとてもいい時間になりました。そして最初は家で入る方がいいと思っていたけど、やってみるととっても楽しかったのでチャレンジすることが大事やなと感じました。自分の素を出すのが苦手な人でも自分の殻を破ることが出来る素晴らしい体験だと思いました。



川マンディにチャレンジ

## 「大晦日での恵み」

グレイス神戸ミッションチャーチ 木村知世

私はスルートウンバンでの年越し礼拝と、キャンプファイヤーについて書こうと思います。大晦日の夜に、グロリア寮IIで寮の中学生2人と舎監の家族の方々と年越し礼拝をしました。礼拝ではインドネシア語の賛美を歌ったり、現地の先生に祈ってもらったりしました。賛美はインドネシア語だったので意味は分かりませんでしたが、住んでいる国や話す言葉が違う人たちと一緒に賛美が出来て嬉しかったです。礼拝後に寮の前でキャンプファイヤーと花火をしました。私はこの時に神の家族だなーと感じました。初対面の遠くに住んでいる人でも一緒に楽しく過ごしたり出来るのは、同じ神様を信じているからだと思いました。私はこのインドネシアステップアウトを通して神様が本当にいることの実感と神様を信じて生きていくことの素晴らしさを感じることが出来ました。このトリップは私にとってたくさんのことを知れた最高の経験でした。



大晦日のキャンプファイヤー

## 「美味しい料理」

グレイス神戸ミッションチャーチ 北村琴音

インドネシアの料理はどれもとても美味しかったです。バイキング式になっていて、ほしい物を自分で選んで取ることが出来ます。私のお気に入りはこの写真の料理です。スープとすだちの割合が丁度良くて、鳥肉と白菜と卵という具のチョイスも口の中が忙しくなくて、美味しかったです。本当にどれも美味しかったです。私は感情の中で美味しいが1番好きです。美味しい=幸せにもなるし、美味しい=楽しいにもなるからです。それに、美味しい物を食べると元気になります。そして、美味しいという感情は世界共通の感情です。私はこれを美味しいの法則と呼んでいます。美味しい法則には秘密があって、誰と食べるかが美味しいに比例するという事です。

イエス様もきっとこの美味しいの法則を理解していて、ザアカイとご飯を食べたり弟子たちとご飯を食べたりしたんだと思います。美味しい=恵みだなあと感じたインドネシアtripでした。



私のお気に入り

## コーヒーミッション

インドネシアはコーヒー名産国の一つです。でもそれは、スマトラ島のマンデリンという銘柄のことを指し、カリマンタン島ではありません。そもそもコーヒーの生産地ではないカリマンタン島のものが、市場に出回ることなどありません。しかし、ブンカヤン・ベラカ寮出身のウィルスが、自分の故郷シュノーレン村でコーヒーを栽培したいと願っていました。そこで彼は高校卒業後、スマトラの大学に進学してコーヒーについて学び、コーヒーの苗と栽培技術を見事持ち帰って来ました。↗



炎天下、長距離のバイク移動は大変です



### カリマンタン島西部地図



バイクで行けなくても、足で前進

西カリマンタン



これがコーヒーの木です

## インドネシアミッション委員 東 聖士

↗ 昨年8月インドネシアを訪れた時、このシュノーレン村を訪問しました。スルートウンバワンからバイクで5時間、恐ろしいほどの急勾配と悪路の連続の末ようやく辿り着きました。残念ながらウィルスには会えませんでした。家族と会うことが出来て、コーヒー畑を見学させていただきました。しっかりと成長し、たわわに実らせる木々を見て期待を持ちました。ウィルスが親戚とともに経営しているカフェを訪れ、実際に彼が栽培している豆を使用したコーヒーを飲みました。総合しての感想は、豆の品質はまだまだ悪いが、豆自体の伸び代は悪くなさそう…期待が膨らみません。胡椒と共に新たな産業として成り立つ可能性を持つほどのポテンシャルを感じました。

日本からでも力になれることを考え、日本のコーヒー職人の意見を伝え、少しでも栽培や精製に役立ててもらいたいと思いました。それで、この年末年始にステップアウトの引率でインドネシアを訪れた時、予めブンカヤン・ベラカ寮の舎監、ギデオンを通して焙煎する前の生豆を見せてもらうように約束しました。この豆を見ることが、インドネシアミッションとして引率以外での大きな目的の一つでした。ギデオンがエンティコン・グロリア寮IIに来てくれて、その生豆を受け取りました。ワクワクして豆を確認すると…素人の目でも分かるほど使い物にならない酷い豆でした。話を聞くと、ウィルスは忙しくて、家族が豆の精製をしたそうです。コーヒーは栽培だけでなく、正しい方法で精製を行なってこそ、初めて販売出来る価値が出てきます。しっかり学んで精製しなければせっかくの实りも無駄になります。ウィルスがしっかりと教えていなかったのか、教えられた通りに作業しなかったのか分かりません。いずれにしても教えること、また学んだことをきっちりという教育の大切さを教えられる出来事でした。

今は胡椒ミッションとして用いられている胡椒も同様で、失敗を繰り返しながら試行錯誤して、現在のように安定した品質を生み出せるようになりました。現地の人と足並みを合わせながらですからスムーズに行きません。でもいつか西カリマンタン産のコーヒーがインドネシア市場で売られ、日本ではコーヒーミッションとして皆さんに購入していただける、そのような風景を見せていただけることを期待しています。



シュノーレン村のコーヒーの実

## － 祈りのリクエスト －

### ATI神学校

- ◎神学生の祝福のために。スタッフに霊・肉共に助けと祝福があるように
- ◎宣教師館やその他の建物のメンテナンスが進むように

### 中高生寮（3つの学生寮共通）

- ◎子ども達の教育、霊性、生活指導が良くなされていくように
- ◎指導する舎監たちの守りと霊性のために

### エンティコン・グロリア寮Ⅰ

- ◎井戸の掘削は成功しました。感謝。乾期も十分な水を確保できるように

### スルートウンパワン・グロリア寮Ⅱ

- ◎アニミズムの背景の子ども達が霊的に勝利していくように

### ブンカヤン・ベラカ寮

- ◎ベラカ寮が宣教の前進のために用いられるように。日本語クラスの可能性があります。みこころならば道が開けていくように

### ポルネオ幼稚園（幼児教育所）

- ◎幼稚園の土地・建物が与えられるように。政府の認可手続きが進むように。
- ◎責任者ネリに神様の助けと知恵が与えられるように

### 奨学生（中高生寮出身者）

- ◎看護大学を卒業したドノが、公務員試験にパスするように
- ◎修士の学びをしているスインの論文と、卒業後の導きのために

### プニティ・アナスタシス教会

- ◎CSの子どもたちの部屋のために教会の後ろを増築予定です。主の助けがあるように

### 沿岸部族への働き

- ◎救われた●族の人たちの信仰と生活がフォローされていくように

### その他

- ◎西カリマンタンに宣教師が遣わされるように



◎族のエズラさん家族とタヨнна氏夫妻

## ステップアウトの証し ～続き～

「暑い熱いクリスマス集会」 ヒルズチャーチ 山本栄太  
 インドネシアのクリスマス集会は、年越しのキャンプファイヤーの後にありました。インドネシアでは一月末までクリスマスムードらしく、一月のしかも暑いクリスマス会を初めて体験しました。インドネシアクリスマス集会では、会場に入りきれない程の人たちが集まりました。そこでは寮の子ども達が日本語で強くあれ雄々しくあれを賛美してくれたり、ダンスを披露してくれたりしました。僕たちはインドネシア語で慕い求めますという賛美や、スキットをしたり、泰貴先生がめぐみ先生の通訳でメッセージしてくれたりしました。一番心に残ったことは、泰貴先生のメッセージの最後らへんに、『イエス様を信じて永遠のいのちをもらいたい人』と聞いた時に、沢山の人が手を上げていたことです。言葉の壁を越えて泰貴先生のメッセージが届いた事がイエス様すごいな、ここにおられるなって思い、インドネシアに行って良かったな、この光景見れて良かったと思いました。



インドネシアクリスマス集会

### 「道路事情と水たまり」

八尾福音教会ホープチャペル 生駒崇哉  
 カリマンタン島のマレーシア領からインドネシア領へ入ったとたん、コンクリート舗装のされていないガタガタ道になりました。車の後部座席で前の座席を両手で掴んでいても窓に頭がぶつかりました。スルートウンパワン・グロリア寮Ⅱからの帰りは、前日から朝方に雨が降ったため縦5m、横3m、深さ50cm程の大きな水たまりに遭遇し、タイヤがぬかるみにはまってしまいました。車にロープを引っかけて、バイクを運転して下さった現地の方々、一緒に来たバイクドライバーたちのおかげで、なんとか車を脱出させることができました。インドネシアにいる間、常に心の中でこの危機から救ってくださいと祈っていました。日本にいると色々な危機が起きてても何とかかなると考えていました。しかし、何とかするのは神様のおかげであると再確認しました。インドネシアでの経験を踏まえて、どこにいても主が守ってくださっていると実感しています。



力を合わせて!

いかがでしたでしょうか？ある宣教師が「ニュースレターを100回読むより、1度来てほしい」と語った言葉が心に残っています。このニュースレターをお読みした一人でも多くの方が機会を作って体験し、伝える側になっていただきたいと願っています。

東 聖士